

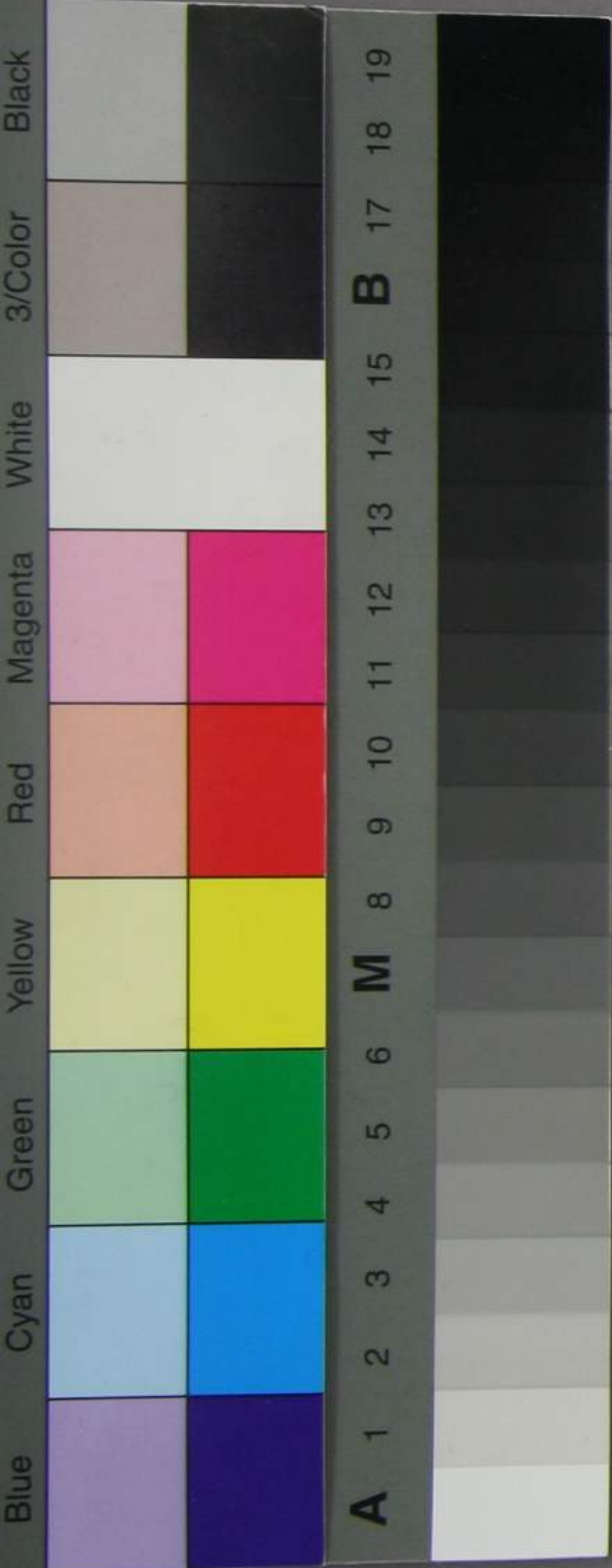
414
A 3246



天正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

本邦生糸ノ品種宇内各國ニ超越スル更ニ喋ノ辨ヲ
俟タス然リ頻年蠶卵紙ノ濫出スルヨリ大ニ其製作ヲ減シ
品位次第ニ下劣ニシテ竟ニ名品ノ聲價ヲ失ヒ貿易ノ享
利將ニ絶ントス豈浩歎ニ堪ユヘケンヤ抑國ニ名産アル
人民資テ以テ各自ノ共益ヲ増シ其國ノ昌盛ヲ賛スルハ
古今内外ノ均フスル所ニシテ而メ今我邦ニ於テハ却テ國
家ノ公利ヲ減損シテ高賈或ハ破産ニ及ブモノアルニ至ル

大隈侯



苟モ之レヲ憂フルモノ徒ニ袖手傍觀スルニ忍ヒシヤ頃日
 偶一外商ノ説ヲ得テ之レヲ閱スルニ開市以來蠶卵紙輸出
 ノ次第ト生糸貿易ノ景状ヲ詳悉シ能ク事體ヲ審ニシテ
 以テ其真理ヲ證シ實歴ニ就テ而シテ其弊害ヲ明カニス割
 切適實痛ク時弊ノ緣由ヲ辨析ス人ヲシテ其拯救ノ術アル
 一ヲ了得セシメントスト謂ツヘシ稀有ノ好書ニシテ養蠶場
 ノ珍寶ナリト故ニ今之レヲ世止ニ公ニシテ以テ其業ニ
 服スル者ヲシテ大ニ及求スル一アラシメントス夫レ一郷ノ

中事ノ稠衆ニ浩害アル

必ク之レヲ憂ヒ若其ニ極救ノ術ヲ見ル是レ
 即チ己レヲ保護スル世間ノ常情ニシテ
 景

拯救ノ術ヲ覓ム是レ世間ノ常情ニシテ然モ吾人ノ同フ
 スル所ナリ今ヤ外人尚其弊害ヲ洞知シテ之ヲ忠告スル
 如斯苟モ此慨ヲ同フスルモノ切ニ茲ニ注意シテ回護ノ方
 策ヲ盡サスシテ可ナランヤ

苟モ之レヲ憂フルモノ徒ニ袖手傍觀スルニ忍ヒシヤ頃日
 偶一外商ノ説ヲ得テ之レヲ閱スルニ開市以來蠶卵紙輸出
 ノ次第ト生糸貿易ノ景状ヲ詳悉シ能ク事體ヲ審ニシテ
 以テ其真理ヲ證シ實歴ニ就テ而シテ其弊害ヲ明カニス割
 切適實痛ク時弊ノ緣由ヲ辨析ス人ヲシテ其拯救ノ術アル
 ヲヲイ得セシメントスト謂ツヘシ稀有ノ好書ニシテ養蠶場
 ノ珍寶ナリト故ニ今之レヲ世上ニ公ニシテ以テ其業ニ
 服スル者ヲシテ大ニ及求スルヲアラシメントス夫レ一郷ノ

此ノ書ハ蠶桑ノ術ヲ論ズルニ至リテ其弊害ヲ明カニス割切適實痛ク時弊ノ緣由ヲ辨析ス人ヲシテ其拯救ノ術アルヲヲイ得セシメントスト謂ツヘシ稀有ノ好書ニシテ養蠶場ノ珍寶ナリト故ニ今之レヲ世上ニ公ニシテ以テ其業ニ服スル者ヲシテ大ニ及求スルヲアラシメントス夫レ一郷ノ

必ス之レヲ患テ各其私ヲ去テ共ニ

拯救ノ術ヲ覓ム是レ世間ノ常情ニシテ然モ吾人ノ同フ
 スル所ナリ今ヤ外人尚其弊害ヲ洞知シテ之ヲ忠告スル
 如斯苟モ此慨ヲ同フスルモノ切ニ茲ニ注意シテ回護ノ方
 策ヲ盡サスシテ可ナランヤ

近年日本蠶卵紙ノ輸出夥多ナルヨリ大ニ生糸ノ製作ヲ減シ
其損害竟ニ全國ニ波及シテ貿易ノ公利ヲ失フニ至ラントス
豈ニ之レヲ悲傷セサル可ケンヤ故ニ我儕今日本高賈ノ其
業ニ從事スル者ノ為ニ爾來蠶卵種ト生糸トノ賣買ニ就テ
實歴ノ形状ヲ述テ以テ其事體ヲ詳明ニシ大ニ看破ス
ルヲアラシメントス庶幾クハ高賈目前ノ小利ニ迷ハス將來
ノ公益ニ注意シテ漸ク蠶革ノ方法ヲ設ケ固有ノ真利ヲ

回復セハ我儕ノ婆心モ亦萬一ニ禪補ナシト云フ可カラス
 蠶卵種輸出ノ生絲ニ弊害アルヲ知ラント欲セハ先ツ生
 絲貿易ノ實況ヲ詳悉セスニハアルヘカラス故ニ今茲ニ日本
 互市開場ノ翌年ヨリ九年ノ間生絲百斤ノ平均價專ヲ叙
 シテ以テ其次第ヲ明ニスヘシ

年	彼	我	價	弗
一八六一	文久元辛酉		三七	〇
一八六二	文久二壬戌		四〇	三
一八六三	文久三癸亥		四五	九
一八六四	元治元甲子		五〇	〇
一八六五	慶應元乙丑		六一	七
一八六六	慶應二丙寅		七四	四
一八六七	慶應三丁卯		七六	五
一八六八	明治元戊辰		七四	一
一八六九	明治二己巳		八〇	〇

右年間ニ於テ千八百六十八年ヲ除クノ外ハ其價常ニ騰貴セリ是レ歐羅巴洲ニ於テ非常ノ蠶病行ハレテ大ヒニ繭ノ生産ヲ減損スルニ由リ自ラ他國良好ノ生絲ヲ要セシタナリ今其事實ヲ明ニスルニハ左ノ形態ニ就テ之レヲ推知スルヲ得ヘシ

千八百五十三年ニ佛蘭西一國ニテ生絲ノ作ハ生繭四千三百萬斤ニ及ヒタリ然ルニ千八百六十五年ニ至テハ僅ニ六百七十萬斤ニ減シタリ然レハ二十五年ノ間ニ於テハ殆トハ割五分ノ減

損ナリ

伊太里。伊斯巴尼亞。其外歐羅巴中生絲ヲ生スル諸國ニ於テモ其損耗大畧是レニ同シ

是レニ由テ之レヲ考フレハ日本生絲ノ歐洲ニ貴重セラレテ次第ニ其價ノ進ミシハ更ニ驚クヘキコトハ非サルナリ

然シテ日本生絲ノ價直次第ニ騰貴セシ間ニ於テ之レヲ他國ノ生絲ト比較スル寸ハ其品位ハ却テ漸々ニ劣リタリ此品位ノ劣リタルハ其繭ノ性質ノ善カラキニ由リ其性質ノ善

カラサルハ蠶卵ノ輸出ヲ制セサル事ヨリ馴致セシハ是レ智
者ヲ俟タスシテ辨知スル所ロナリ

良絲ヲ得ント欲スルニハ必良蠶ヲ求ムルヲ以テ第一ノ先務
トナスヘシ而メ諸製絲家ノ能クヲ知セル如ク彼良絲ハ唯
春蠶ヨリ之ヲ製スル事ヲ得ルモノナリ

蠶卵ハ自由貿易品トナリタルハ千八百六十五年ニ始マリ
其以前ニハ此輸出未タ免許セラレサリシ故ニ生糸性質ノ
虚惡ニナリタル原因ハ何レノ時ヨリ始マリタルト云フハ我

侷容易ニ其時日ヲ明指スルヲ得且ツ事實ヲ攀ケ
形態ヲ示シ審ニ其緣由ヲ鮮明スルヲ能クスヘシ

今是事實形態ヲ論究スルニハ先ツ一ノ要旨ヲ前言
スヘシ其前言トハ即ハテ日本生絲ノ為メニ第一ノ市場タル
龍動ニ於テ相州上州武州信州越後ヨリ産出シテ生絲中
其輸出最夥多ナル提。絲ト唱ル物ノ價值ニ在リト知ル

可シ

サテ千八百五十九年ヨリ千八百六十四年迄ハ蠶卵ノ輸出未タ

免許セラレサリシガ此時伊太利絲ノ平均價直「ポント」

我量目百ニ付二十八コシリング 我新貨五回ハ我ニ重三當 ニシテ第一等ノ提糸ノ

價ハ二十七コシリング 凡四回九十錢 ナリ故ニ伊太利絲トハ唯僅ニ

五分五厘ノ差違ナリ千八百六十五年ヨリ六十六六十七年マテ

ノ間蚕卵紙輸出ノ數ハ毎年一百六十萬内外ナリ而シテ此

時伊太利絲ノ價ハ三十八コシリング 凡六回八十九錢 ニシテ第一等

提絲ノ價ハ三十五コシリング 凡六回五拾五錢 故ニ伊太利絲トハ

既ニ九分ノ差違ヲ生セリ

千八百六十八年ニ於テハ蠶卵ノ輸出二百三十萬ノ巨額ニ登レ

リ而メ右負數ノ内ニハ上等ノ春蠶卵最多シ

其翌年ニ至リテ伊太利生絲ノ價ハ四十六コシリング 凡八回三拾錢

ニシテ上等ノ提絲ハ三十五コシリング 凡六回三拾錢 ナリ故ニ其差

違モ亦二割五分餘ノ多キニ至レリ

千八百六十九年ヨリ七十年七十二年ノ間蠶卵紙輸出平均ノ

負數ハ毎年一百三十萬枚餘ナリ時ニ伊太利生絲ノ平均

相場ハ二十四コシリング 凡六回十七錢 ニシテ上等提絲ノ價ハ二十九

コシリング九五四三錢
三厘五毛トナレリ故ニ比較ノ差違一割七分ナリ

又試ニ支那生糸ノ景状ヲ説明セハ前段ニ論述スル事理
ヲ猶委シク了解スル事ヲ得ヘシ支那ニ於テハ聊モ蠶卵
ノ輸出ナキ事ヲ以テ能ク之レヲ推知ス可シ

千八百六十年ヨリ六十九年マテ九ヶ年ノ間平均相場ヲ
以テ之レヲ論スレハ日本上等ノ提糸ハ支那ノ極印セシ生糸
「ツアトリ」糸名第三番ノ價ヨリモ二割二分ノ高價ナリシ
然ルニ千八百七十年七十年ノ間ハ上等提糸ノ平均相場支那

糸ト其價位ヲ同フセリ

目今即チ千八百七十二年ニ於テハ極印シタル支那生糸ノ價

ハ龍動ニテ二十九九五四三錢
三厘五毛コシリングニシテ上等提糸ハ二十八

コシリング九五四三錢
三厘三毛ニ賣リ難シ

龍動ノ市場ニアル残糸ノ事ヲ論シテ尚此外ニ前段ノ考證ニ
供スヘシ是ハ龍動高買ノ庫中ニ在テ賣残りタル日本生糸
ノ負數ヲ毎月詳細ニ調査シタル實驗ノ説話ナリ

千八百六十年ヨリ千八百六十八年マテ龍動ニ於テ日本生糸

ノ賣残りシ額ハ八十斤一箇ニテ六千箇ニ登レリ

昨午八百七十一年中ハ生絲ノ輸出殊ニ減少セリトイヘ氏當七十

二年ノ始ニ於テ九千五百箇ノ残額ナリ而メ其中ニハ提絲

最多ク大概古物ノ下品ニシテ織工ノ之レヲ買フヲ欲セ

サルモノナリ

今此ノ二三ノ事體實歴ニ就テ之レヲ推業セハ蠶卵ノ自由

貿易ハ實ニ日本生絲ノ産出ニ大害アルハ更ニ終ヒヲ容ル、

事ヲ得サルヘシ是レ帝ニ生絲賣買ノ價直ニ於テノミ減耗

アルニヲラスメ今世界中ノ大市場ニ於テ命名セラレタル聲

價ヲモ損傷スルニ至レリ此聲價ヲ損傷スルハ恐ラクハ賣

買ノ價值ヲ減セシヨリ其實損更ニ巨大ナルヘシ

日本政府及人民ノ其業ニ從フモノ能ク此理ヲ予解シテ其

弊害ヲ辨知セハ早ク之レヲ拯救回護ノ方法ヲ設クヘシ而メ

是レ政府ノ職掌ニシテ決メ忽諸ス可ラサルトス

今政府既ニ國民ノ便宜ニ注意メ外國製ノ器械ヲ購入シ以

テ日本生絲ノ進歩ヲ計ルハ甚称美スヘキ事ナリ然レトモ良

蠶保護ノ慶置ナケレハ恐ラクハ其功ヲ奏シ難カルヘシ
 良繇ハ惡蠶ヨリ得ル能ハサル人ノ共ニ通知スル所ナリ今良
 蠶卵ヲ残ラス輸出スル寸ハ如何ニシテ良蠶ヲ得ルノ道アルキ
 ヤ是レ獨リ我侪ノ苦慮ノミナラス横濱ニ在雷スル欧米諸
 國ノ高賈ノ等シク顧慮スル所ロニメ日本政府ノ早ク此蠶卵
 ノ濫出ヲ制止スルコトニ於テ悉ク其希望ヲ囑セリト云フ可シ
 然リ而メ我侪ノ所見ハ現ニ此事ヲ行テ其効ヲ致サンニ
 實ニ奥州米澤柳河信州上田上州島邨等ノ春蠶卵ハ

全ク其輸出ヲ禁止スルヨリ他事ナカルヘシ

千八百六十五年以來日本政府蠶卵自由貿易ノ許可
 アリシニ由テ歐羅巴ノ人民ハ大ニ其便益ヲナシタルハ更ニ疑
 ナカル可シ然ルニ今テ日ニ於テハ歐羅巴諸州蠶ノ疾病漸ク
 將ニ消却セントセリ而シテ佛朗西。伊太利。伊斯巴尼亞ニ
 於テハ此三三年來ハ殊ニ多量ノ良蠶ヲ産セリ故ニ日本
 ノ蠶卵歐羅巴ノ市場ニテ賣賈セラレタル價直ノ次第
 アルニ就テ之レヲ證明スルヲ得ヘシ其故ハ當初日本上等

ノ春蠶卵ハ紙一枚ニ付三十コフランク凡四十三六錢當レニ賣レタルニ此
二三年間ニ僅六コフランク凡八十五錢當レヨリ十五コフランク凡二百三錢當レ
ノ相場トナレリ

既往ノ事ヲ詳論シテ以テ將來ノ務ヲ推業セハ日本政府ニ
於テハ我儕ノ忠告ヲ採用シテ之レヲ實際ニ施行セラルヘキ
機會ハ實ニ今日ニ限レリト云フヘシ而メ此保護ノ事ハ即チ
其國ノ自守自防ニメ聊モ他ノ障碍ナキノミナラス是乃ハチ
外國交易ノ關涉スル最ク緊要ナル産業ヲ自國ノ為メニ

回 護 ス ル 實 務 ト イ フ ハ ン

サテ頗ル長文ニ涉ルトイヘモ更ニ一ノ敬言語ヲ録メ以テ前
章數言ノ照應ニ供スヘシ其敬言語ハ即チ日本在留某
國公使館ノ書記官ヨリ其本國政府へ送達シタル
日本ノ養蠶事務ヲ報告セル信書中ノ一語ニアリ
其書翰ノ全文ハ不急ノナレハ之ヲ贅セス唯其日時日本
江戸ニ於テ千八百七十年一月十一日ト記シタリ其文ニ曰ク本
日本ノ最良ナル州郡ヨリ上好ノ蠶卵ヲ夥シ輸出セル

事ハ實ニ日本生絲ノ廢黜惡ニナルヲ補助賛成セ
リト

嗚呼實ニ是レ明識ノ確言ニテ決メ異議スヘカラス
殊ニ日本養蠶場諸商賈ノ為メハ真ニ頂門ノ針
トモ云フヘシ



大雅堂